

世界の課題と向き合いながら 企業活動を続けていきます

2015年9月、ニューヨーク国連本部で「国連持続可能な開発サミット」が開催され、「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals = SDGs) が採択されました。

それまでの15年間、国際社会は「ミレニアム開発目標 (MDGs)」を掲げ、貧困、飢餓、教育など、主に途上国を中心としたさまざまな課題の解決をめざしてきました。

その成果を前提として、世界の国々がさらに努力し、協力し合いながら、2030年までに達成すべき新たな17の持続可能な開発目標と169のターゲット、それがSDGsです。

今、世界の様相は刻々と変化しています。その中で、継続的に取り組まれてきた課題もあれば、新たに浮上ってきた課題もあります。企業がよりグ

ローバルなフィールドへと、活動領域と視野を広げるにともない、その担うべき役割も、責任の重さも、また取り組むべき課題の優先順位も、微妙に変化してきていることを実感します。

今年、創業100周年を迎えた森永乳業は、この機会に改めて世界に目を向け、また自らの足元を見つめ、企業としての責任について考えていきたい。そして、日々の企業活動の中で、それを真摯に果たしていきたいと考えています。

SDGsは、そのための新たな指標と私たちは認識しています。世界のさまざまな課題の解決に少しでも貢献することをめざしながら、これから始まる「次の100年」を一步ずつ着実に歩んでいきたいと思えます。

持続可能な開発目標 (SDGs)

MDGsが途上国のための目標であったのに対し、SDGsは格差の問題、持続可能な消費や生産、気候変動対策など、先進国が自ら取り組まなければならない課題を含んでいます。その達成のためには、各国政府やNGOだけではなく、民間企業も日々の活動を通して、取り組んでいくことが求められています。



目標 1 [貧困]
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる



目標 2 [飢餓]
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する



目標 3 [保健]
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標 4 [教育]
すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



目標 5 [ジェンダー]
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う



目標 6 [水・衛生]
すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



目標 7 [エネルギー]
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



目標 8 [経済成長と雇用]
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用 (ディーセント・ワーク) を促進する



目標 9 [インフラ、産業化、イノベーション]
強靱 (レジリエント) なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



目標 10 [不平等]
各国内及び各国間の不平等を是正する



目標 11 [持続可能な都市]
包摂的で安全かつ強靱 (レジリエント) で持続可能な都市及び人間居住を実現する



目標 12 [持続可能な生産と消費]
持続可能な生産消費形態を確保する



目標 13 [気候変動]
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



目標 14 [海洋資源]
持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



目標 15 [陸上資源]
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



目標 16 [平和]
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



目標 17 [実施手段]
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる

企業活動とSDGsについて 理解を深める勉強会を実施しました

さまざまな部署の社員が参加し、
垣根を越えて、活発な議論を展開

5月に行われた「SDGs勉強会」。所属はもちろん、業務内容や役職も異なる27名が参加しました。それぞれの立場から改めて自社の企業活動全体を視野に入れながら、サプライチェーンを通しての社会との関わりを考えていくことで、新たな“気づき”を得ることが勉強会の目的です。



サプライチェーン全体を視野に入れ、
企業活動の社会的な影響を検証

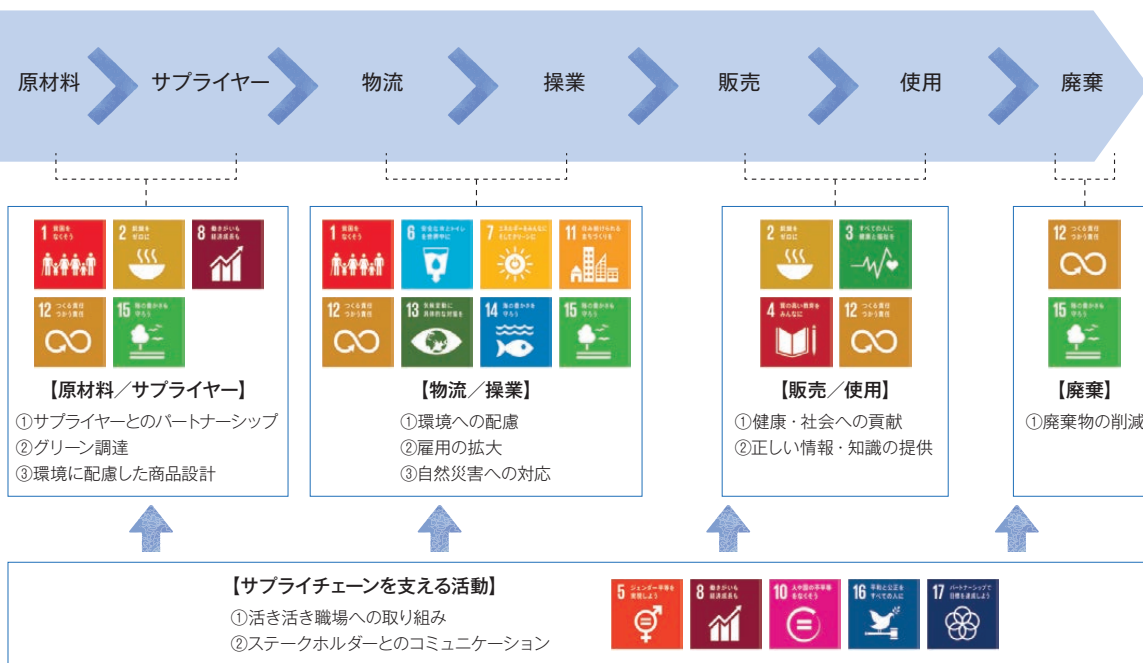
まず、経済人コー円卓会議日本委員会の石田寛氏より、最新のCSRの動向についてお話いただきました。企業の社会的責任、世界規模で配慮すべき課題、また、企業活動の本業を通じて社会への配慮・貢献が求められる近年の傾向などを学びました。

続いて、同じく経済人コー円卓会議日本委員会の松崎稔氏によるワークショップを実施しました。少人数のグループワークで、自社の活動がサプライチェーン全体にどのような影響（プラス/マイナス）があるかを検証しました。これらを、SDGsと関連づけながら議論することで、森永乳業のサプライチェーンを可視化しました。同じ社内でも、異なる視点から意見をぶつけ合うことで、議論を深めることができました。

森永乳業のサプライチェーンにおけるSDGs マッピング

勉強会でを行ったワークショップを通して、自社の活動をサプライチェーン全体で可視化し、SDGsとひもづけました。これが完成ではなく、今後、社内で協議しながらマップをつくりあげていきます。

かがやく笑顔あふれる
豊かな社会の実現



参加者の感想

社会的課題への取り組みの大切さを実感

「これからは、会社として利益を追求するだけでなく、社会的課題への取り組みをベースにどのように事業を組み立てていくか、真剣に考えていかなければいけないと思います。今回はそのよいきっかけになりました。」
(営業本部署 藤川 大介)

部署を超えたディスカッションが気づきに

「ただ考えるだけでなく、書きだして異なる部署の人たちと共有し、ディスカッションすることで、普段は気がつかないことに、気づくことができました。」
(経営企画部 柳澤 計次)

課題への取り組みとビジネスの両立が課題

「事前に勉強はしてきたつもりですが、まだ浅かったと反省しました。もっと勉強して、社会課題に取り組みつつ、ビジネスの発展につなげていければと思います。」
(酪農部 関口 泰司)



講師から一言

良い面も悪い面も、
すべての情報を
共有することが重要

経済人コー円卓会議
日本委員会
専務理事 兼 事務局長

石田 寛氏



今、展開しているビジネスと、世界の課題となっている事柄、たとえばパーム油、労働環境、容器包装やパッケージなどの問題に対する取り組みを短い時間の中で考えました。その中で、良い面も悪い面も、互いの情報を共有できたという意味で有意義な機会だったのではないかと思います。それぞれの職場に戻ったとき、ここで体験したことを活かしていただきたいと思います。

自分たちの活動を
客観的に整理することが
次につながる

経済人コー円卓会議
日本委員会

松崎 稔氏



それぞれの部署で抱える課題を、サプライチェーン全体でしっかり考えていくことが大切です。とくに食品業界は、安心・安全に加えて、原料調達から製造・販売へのプロセス全般が倫理的であることを、社会から要請されています。日頃から高い意識をもつ必要があると思います。こうして、自分たちのビジネスを一度客観的に整理して、さらに上をめざすことは、とてもよい試みだと思います。